

令和3年度 第4回まちづくり基本方針検討小委員会 議事要旨

日 時：令和3年11月17日(水)9:00～10:40

場 所：兵庫県庁 西館3階 県土整備部会議室(大)

出席者：奥村与志弘委員、角野幸博委員、皐月秀起委員、竹林英樹委員、中塚雅也委員、平田富士男委員、室崎千重委員、八木有加委員

1 議事の概要

(1) 会議の成立確認

過半数(9名中8名)の委員の出席により委員会成立。

(2) 議事録署名委員の指名(角野委員長)

名簿順により、皐月、中塚両委員を今回の議事録署名委員に指名。

(3) 審議事項

事務局から、まちづくり基本方針のパブリックコメント(案)について説明し、その後意見交換を行った。

2 主な意見交換

まちづくり基本方針のパブリックコメント(案)について

【委員】

資料3の1枚目(概要版の資料)の「2 まちづくりを取り巻く現状と課題」の中に、SDGsに関する意識の高まりを入れた方が良いのではないかと。様々な課題がある中でローカル志向や環境意識の高まりといった波を捉えてまちづくりの方針を作っていくんだということを感じた。

次に「3 基本方針の考え方」の「(3) テーマの設定」の「③魅力・挑戦」にグローバルという言葉を入れられないか。特に外国人にとっては、地方都市や多自然地域の方が魅力的で、インバウンド観光客が直接そちらに来るようになる。豊岡のかぼんや三木の刃物、淡路の線香などの製品も、直接海外と取引をしている。世界を相手に魅力を発信し挑戦していく時代になっているのではないかと思う。

テーマの「②持続・循環」と「④自立・連携」を集約することについて、「連携」という言葉は、域内での連携、住民と行政との連携、産官学の連携のイメージだと思うが、4つのエリア同士の地域連携やネットワークも大事だと思う。

また、但馬なら鳥取との連携、西播磨なら岡山備前との連携、丹波なら京丹後との連携など、他のエリアとの連携を視野に入れた方が良いのではないかと。域外との連携という意味で、「連携」という言葉は残した方が良いのではないかと。

【事務局】

「連携」に色々な意味合いがあるのは承知している。例えばパートナーシップに基づいて3つのテーマを進めていくというような話と、地域間、域外との連携という話もあると思う。「連携」という要素を残すのか、または「(4) 各地域の関係性」の中で地域間連携について表現する手法もあると

思う。ご意見を踏まえて検討していきたい。

【委員】

今の説明だと、(4)の図そのものを兵庫県外も含めた図に変えるということか。

【事務局】

県外の絵を描くというよりは、県外とも繋がりがあるという表現を考えたい。

【委員】

「(3) テーマの設定」について、今まで4つで議論してきたが、長期ビジョンとの整合を図るために3つにまとめ直す可能性があるという事務局の説明であった。その中で、連携のところが持続・循環にどう組み込まれるのかという疑問が出てくる。また、資料3の2枚目以降では「④自立・連携」と「②持続・循環」とを一緒にすると記載項目がすごく膨らんでしまう可能性がある。事務局としてはビジョンとの整合性を優先したいということのようだが、小委員会として、3つにすることに合意しても良いものか、他の委員の意見を聞きたい。

【委員】

「①安全・安心」と「③魅力・挑戦」は、ベースの部分としてマストだと思う。ベースに安全・安心や魅力・挑戦があり、その結果としてそれぞれが自立したり連携したりして、持続可能な循環した社会を作るという感じで、階層が違うのではないか。

【事務局】

他地域との連携についてはまちづくり部局において施策化が難しいこともあり、少し異質だと感じていた。「(4) 各地域の関係性」のところで、地域ごとに生活拠点、地域拠点、広域拠点があり、これが有機的に連携していることを書いているが、ここに、他地域との連携についてしっかり書かせてもらいたい。

また、「②持続・循環」、「④自立・連携」をまとめるにあたっては、「持続・循環」に移せなくて取りこぼれるものがある。これらについては、まちづくり部局で直接対応できないものであると思われるが、重要な取組なので、単に削除してしまうのではなく、「施策の実施に当たって、大きな連携の輪を作ることにより取組が実現していく」というようなことを文章化し、テーマ設定の前か後にきちんと記載することで、各テーマ設定の上に「連携」という言葉がかかるようにし、3つのテーマで各施策の取組を整理していきたいと考えている。

【委員】

項目については、おそらく長期ビジョンを尊重しなければいけないという県全体の方針があるのだと思う。テーマを3つに再編するという点については、その結果をまた教えてほしい。仮に3つになったとして、3つの項目がパラレルにあるのか、それとも先ほど他の委員がおっしゃったように階層性を少し意識しておいた方が良いのか。連携という部分については、3つのテーマを動かしていくための考え方だが、施策として具体化することはなか

なか難しいという意見があった。テーマ設定を組み換えるのであれば、これらの点にしっかり配慮していただきたいということでいかがか。

【委員】

項目立ての話と、施策を立てることがなかなか難しいという現状も理解した。まちづくり基本方針には県の施策であることとともに、市町に対してポリシーを示す役割がある。市町はどうしても自分の域内だけを見てしまいがちなので、周りも見ましよう、全部自前で100%揃えなくても周りとの連携して、あるいは世界も見てやっていきたいと思います、という視点を与えられるよう、3つのテーマのところでも良いので工夫してほしい。

【委員】

基本コンセプトは「すべての人が自分らしく輝ける」ことが、「住みたい、訪れたい兵庫」につながるという読み方なのだろうが、今時、自分らしくできないこともないだろう。繋がりや文化などがあってこそ、住みたい、訪れたいと思うのではないか。もう少しそういった部分が根底に流れていた方が良いのではないかという印象である。例えば神戸は、私にとって大きな田舎感があり、三宮を歩くと知り合いに出会ったり、知り合いの店があったりして、そのサイズ感が魅力だと思っている。そういう感じが見えない。

【委員】

兵庫の都市や地域の魅力の深さがシビックプライドに繋がっていくはずなので、基本コンセプトの説明の中にそういったキーワードがあると良い。

【委員】

文化や何かが魅力になったわけであって、魅力も結果だと思う。

【委員】

資料3の2～4枚目の地域ごとの課題については丁寧にピックアップされているので、大きな意見は無い。郊外住宅地のところでも、行政頼みではなく住民をまちづくりの核と考えていく姿が書かれている。

地方都市か多自然地域の集落群のところにも、グローカルという言葉を入れてほしい。インバウンドに復活の兆しも見えてきている。地方に住んでいても世界に目を向けている方も多い。東京や大阪だけでなく、直接世界に向けて発信していこうというメッセージが伝わる書き方にしてほしい。

都市中心部のところでは、ウォークブルという言葉を入れてほしい。「都市ブランドの構築」のところにも「居心地の良い歩きたくなるまちなかの創出」と書かれているのでそれでもいいとは思いますが、SDGsの観点からも、自動車で移動するのではなく歩くこと自体が楽しいまちづくりのことを書いてほしいと思っていた。

【委員】

実際に関係する人にどう役立ててもらえるのかが、現行の基本方針の一番大きな反省だと思う。言葉選びに関しては、今議論されていた程度で良い。

【委員】

資料3の2枚目について、そもそも多自然地域の集落「群」としている意図は何か。

【事務局】

集落は一つだけぽつんとあるわけではなく、いくつかが固まって偏在しているという意味合いで「群」を入れている。一つ一つの集落を見るというより、そういった集落たちを意識している。

【委員】

それは他の地域でも同じことが言えるのではないか。群として見ることを強調したいのなら構わないが、若干違和感がある。

集落の中にも拠点的な機能があって、国交省の言う「小さな拠点」のように、その辺をどう維持していくかといった議論が少しあってもいいなと感じた。そのことと併せて「群」の言葉が若干気になったので、検討してほしい。

【委員】

単体では生き残れない集落も既に出てきているので、集落間のネットワークとか、小学校区単位ぐらいのグループで見るというような意図があるのではと私は感じていたが、事務局はどう考えているか。

【事務局】

集落と言ってもレベル感は一様ではない。資料3の1枚目「(4) 各地域の関係性」のところで、「生活拠点」や「地域拠点」と名付け、レベル感を表現している。例えば豊岡や西脇のように今でも中心になっている都市と、関宮町や大屋町のように旧町の中心市街地だったところでは、同じ地方都市という表現でも、今ある機能が違うし、今後求められる機能も違うと思う。集落は、委員がおっしゃるように拠点性があるところと無いところがあるが、皆さんにイメージしてもらいやすい代表的なモデルとして、集落は単体ではなかなか生活が成り立っていかないということを表現したいと考えて整理した。これが正解と言えるか分からないが、改めて検討する。

【委員】

資料の本文中では「群」をつけずに「集落」という言葉が多く使われているし、地方都市は地方都市「群」とか「たち」とかにはなっていない。郊外住宅地も同様なので、「群」を削除したとしても他の部分との整合は取れるはずである。委員のご指摘を踏まえて、検討してほしい。

【委員】

資料3の1枚目「(4) 各地域の関係性」の図を見ると、緑の部分は、一般的には多自然居住地域と言われているところで、「集落」と書いてある部分は、いわゆる集落の拠点部分、地域内の小さな拠点みたいなところを指しているように見えるので、整理してはどうか。小さな拠点みたいなものを強調する必要があるかどうかは別だが、農村部において、地方都市も大事だが、旧小学校区みたいな部分の中での拠点機能を維持していくことも大事だということが、どこかで見えてもいいのではないか。

【委員】

薄緑色のところが「多自然地域の集落群」、濃い緑の丸が「集落」と表現されているが、緑のところはこれ自身が多自然地域なんじゃないのかというご意見である。

【委員】

先ほどから議論されている自立・連携について、資料3の1ページ目「(4) 各地域の関係性」の図に、エネルギーの視点も入れる必要があると思う。自立・連携に関するエネルギーの考え方については、安全・安心を考えるとときには「自立」が出てくるが、普段は、既存のインフラがメンテナンスされている限り「自立」をあまり気にする必要はなく、「連携」していても良い。つまり、太陽光、風力、バイオマス、地熱などの発電施設の地域環境との調和の問題をクリアした上で、これはどちらかというところ「魅力」の話になるが、新しいビジネスとして、多自然地域においてあり余るエネルギーを生み出し、連携して周りに供給することは別に悪いことではない。景観の破壊などを防ぎつつ、産業として成立するのであれば、その方向性はあってよい。これから自立・連携の表現を検討するときに、災害時には最低限これぐらいの自立を想定していて、日常的には他の地域も含めて連携する、というような視点を入れて欲しい。

また、同じ「各地域の関係性」の図において、情報やエネルギーのネットワークを「連携軸」という拠点から拠点につながる物理的なイメージで表現するのが適切なのか。「重層的なネットワークを形成している」と表現されているが、エネルギーや情報資源は、交通とは違うルートですでに繋がっていたり、バックアップ体制が築かれていたりする。それを整備する電力系統も兵庫県内で閉じて供給しているわけではないし、ガスについても、都心部にだけ都市ガスがあり、それ以外のところには違うガスが供給されている。その辺を自立・連携の話と結びつけて整理すると、各地域の関係性と具体的な施策をうまく表現しているな、ということになるのではないかと思うので、検討して欲しい。

【委員】

エネルギーの自立・連携をどのように図示するかというのは、なかなか難問だが、いわゆる交通インフラのネットワークとは違うというのはその通りである。今回のパブコメの資料がエネルギーの観点からもきちんと伝わる内容になっているかどうかについて、事務局で検討してほしい。

【事務局】

情報のネットワークのほか、水と緑のネットワークなどもこの軸ではないというのは承知しているが、絵で表現するには限界があり、現状では言葉で書いている。ご意見も踏まえて、工夫の余地があるかどうか検討したい。

【委員】

ソーラーパネルなどを山に設置したことにより災害が起こるという記事を新聞で読んだ。創エネ資源の創出を過剰に進めることで、恵まれた自然環境を破壊することにならないか気になるが、両立し得るものか。

【事務局】

資料3の2枚目（多自然地域の集落群の資料）の主な取組の方向性の「地球環境と調和した創エネ・省エネの推進」のところに、「大規模遊休地等における地域環境と調和した創エネ施設の立地誘導」と記載している。太陽光パネルであれば反射の問題、風力発電であれば振動の問題など、周辺地域に及ぼす影響もあるので、単純にエネルギー施設や発電施設を設けるのではなく

条例で誘導しているということを記載している。

【委員】

ソーラーパネルなどは農地に置かれたりすると思うが、後々災害に繋がったり、耐用年数が過ぎて撤去されずに放置されるなど、良いものとして進めた結果、負の遺産になってしまわないか気になった。

あと、同じ資料の「安全・安心」のところに「便利な買い物・通院」と記載されているが、「便利」とまで言っているのか。確保されるべきだとは思いますが、便利になるまでの実現は難しいのではないかと。

【事務局】

実現可能性としては難しい部分もあるが、そうありたいという気持ちを出したいと考え、あえて表現している。

【事務局】

前回の小委員会の時は「不自由ない」と書いていたが、めざす将来像のところでは、後ろ向きな表現を前向きな言葉に置き換えた。

【委員】

資料3の2枚目（地方都市の資料）について。地方都市については、事務局から、「地域」ではなくあえて「地方」という言葉を使いたいという説明があったが、それについて了解いただけるか。

【各委員】

（異論なし）

【委員】

異議が無いようなので、地方という言葉を使うことにしたい。

【委員】

安全・安心の部分について、ある地域については地震についてだけ、別の地域については災害が発生した後の対応のことについてだけ言及したりしている。災害には地震だけでなく風水害や土砂災害などいろいろあるので、なぜそれぞれの地域ごとに注目している災害が違っているのかが気になる。別途、事務局と相談させてほしい。

【委員】

資料3の3枚目（郊外住宅地の資料）について、「NPO 団体等の多様な主体がストックを活用してリノベーションや地域課題解決型のビジネスを展開し、」との記載がある。私が活動している NPO 法人も郊外住宅地の中で無料塾みたいなものやっていて、それが地域の課題解決の一つかなと思っている。ただ「めざす将来像」と「主な取組の方向性」の中に NPO 団体という言葉が出てこないの、どこかに入れてほしい。例えば「自立・連携」のめざす将来像「仕事とコミュニティの新たな関係」中の「テレワークが進展し…」の後段、「地域活動に参加する人が…」の前に「NPO 団体など」と加えてはどうか。テレワークが進展して、自分が使える時間が確実に増えていると思うので、欧米のように可処分時間をボランティアなどに充てる人が増えていくだろうし、実際、去年、一昨年には全くなかったような反応があった。または、「地域を支える活動」の「SNS 等を通じて共通の趣味で結ばれた人たちが…」のあたりでも良い。価値感が一緒に、仕事以外で繋がりを保ちなが

らお手伝いしたいという方が増えてきそうで、それが地域課題解決に繋がっていくと思う。

【委員】

今のご意見は、対応可能な部分があると思う。事務局で検討をお願いします。

【委員】

できあがった基本方針がどう使われていくのかが大きな課題だと冒頭に申し上げた。例えば、防災のところで書かれている内容は一般的に言われていることばかりなので、これを見たところで、特に具体的な行動の変化が生まれるとは思えない。広域行政としての役割を果たそうとするのであれば、書いている内容自体が一般的なものであっても、その方向性に向かって先進的に頑張っている事例なども併せて書けば、具体的な動きが生まれる気がする。また、指標をこの絵にうまく落とし込めると良いのではないか。キーワードや文章だけが並んでいるので、市町で実務に携わっている方やNPOで活動されている方にとって、こちら側の意図を丁寧に汲み取って行動に移すことは難しいのではないかという印象を持っている。

【委員】

パブコメ資料の情報提供の程度として、現状の案で適切なのかどうかという趣旨か。

【委員】

これを見てどんな行動の変化が生まれることを期待しているのか。広域的な様々な取組を把握している県として、この方向性に関してここは比較的進んでいて参照するに値する、などの情報が書かれていれば伝わるころもあるだろうが、せっかくこれだけ丁寧に議論してきれいな言葉で表現しても、結局使われないのではないかということに危惧している。

【事務局】

先進的に取り組まれている自治体とか団体などについて、基本方針が仕上がったときには、考え方を広くイメージしてもらえるように、とりまとめて紹介していきたいと考えている。

【委員】

資料3の1枚目（概要版の資料）で、今できていないことや問題となっていることがいろいろ書かれているが、だめな所をいっぱい言っても兵庫のいいところを伸ばしていけない気がする。どちらかというと、よく頑張っている、芽が出始めているところにもっと注目した見せ方ができるとよい。

【事務局】

第1回小委員会で、取組の評価という資料をまとめているので、パブコメの参考資料として添付させていただきたい。取組の紹介とか、この部分はよく進んでいるというところを見てもらえる資料である。

【委員】

事務局で対応可能な範囲で良いので、検討してほしい。せっかくこれだけの議論をしているので、実際にいろいろな活動をされている方に生かしてもらえるまとめ方になればと思う。

【委員】

資料という形で提起できるか、事務局で検討をお願いします。

【委員】

兵庫県の課題として人口流出が激しいということがある。大阪に出て再び帰ってきた一県民の視点で話をすると、姫路が都市中心部だという自覚は持っていない。その中で、全体の見せ方として兵庫県が日本の縮図だというキーワードをもう少し全面に押し出してはどうか。私は個人的に、それを聞けば「すごいまちだな」と感じる。

その中で、具体的にどこに住みたいかと考えると、資料3の1枚目（概要版の資料）に「コロナ禍でのローカル志向の高まり」として、たつの、豊岡、丹波篠山、淡路は移住相談件数が前年比で増えているとあり、こういったローカルに魅力があると率直に感じている。したがって、多自然地域や地方都市というのが、人口減少社会において兵庫県の魅力を打ち出す際には特徴的なエリアであり、見せるべきところなのではないか。都市中心部については、大阪や東京と比較すると中途半端な感じが否めない。他の地域といかに連携しているかということをお伝えすることができないか。周辺の地域の文化や歴史をネタにしてビジネスができるというような機能があれば、外から見た人にとっても分かりやすくなるのではないか。

【委員】

都市中心部と言うけどそこまで大都市ではなく、むしろその魅力を意識させるにはもっとネットワークとか他地域との関係性も必要なのではないか、という話だと思う。この件については、確かに大阪大都市圏、関西大都市圏の中での中心部の役割というあたりが少し薄いかなという気もしており、全体の考え方や都市中心部のところで、大都市圏の中での位置付けなども書いていくと良いのではないか。事務局で検討してほしい。

ただ、そもそもこの4つのゾーンの区分というのは、例えば摂津地域全体が都市中心部だとか、播磨地域が地方都市だとかいうことではなく、例えば播磨の中に姫路があり、大都市の中心部的な顔もあれば、郊外の顔もあり、中山間地域の顔もあるということで、読み手の側が自分のまちのどの部分はどのような性格なのかというのを意識した上で、地方行政であればそれを施策につないでいただきたいという基本的なスタンスがある。姫路は大都市じゃないとかそういう話とは違うので、そこは共有しておきたい。

【委員】

多自然地域の集落群以外の資料には全て書かれているようだが、「安全・安心」の主な取組の方向性として「子育てしやすい居住環境の実現のための三世代同居・隣居・近居世帯の推進」とある。このような施策があること自体は重要だが、特出しとしてこれだけが書かれていると、結局、子育てしやすい環境というのは自助で頑張れ、みたいに見えるのではないか。同居や隣居はその他の社会的な部分が整っていないからそれをせざるを得ないという場合も当然あるので、それだけで解決しようというのには抵抗感がある。それだけじゃないということが伝わるようにはならないか。他の取組はあるのか。

【事務局】

資料3の3枚目（郊外住宅地の資料）の「魅力・挑戦」の主な取組の方向性のところで、センター施設や空き家を使って介護・医療・福祉・子育て支援などの導入を記載しており、必ずしも自分の努力だけで子育て頑張りましょうというつもりは全くない。ただ、取組の方向性ではまちづくり部局としての打ち出しを念頭に置いているので、例えば県営住宅や公社住宅を使って展開できる施策などを書いている。子育てそのものの取組となると、我々の範疇から若干外れてしまうところもある。ご指摘のように、それだけだと思われぬような書き方については考えたい。

【委員】

資料全体を見れば書いているのだろうが、「あらゆる世代の安心確保」の部分だけ見ると子育てしか書いていない。パブコメではそこだけに着目されることもあるのではないかと思うので、検討をお願いしたい。

次にもう1点。資料3の1枚目（概要版の資料）の「各地域の関係性」の図で、郊外住宅地が3つ示されていて、真ん中の1つは浮いている。これはあまり持続できなさそうな郊外住宅地のように見えるのだが、隣の住宅地と連携することでやっていけるということを示しているのか。

【事務局】

その通りである。都市部に近接している郊外住宅地ばかりではないので、他の住宅地の都市機能を利用せざるを得ない郊外住宅地もあり、それを意識して他の郊外住宅地の生活拠点との連携を表現したものである。

【委員】

大都市の通勤圏の中にあり、大都市にぶら下がっているというだけでは生き残れない郊外住宅地が今後たくさん出てくる。むしろ、大都市へ通勤するというだけでなく、その住宅地の中だけで自立するのは難しいとしても、自立生活圏といったものを周辺地域とともに作っていくような郊外のあり方も検討しなければいけない。資料3の3枚目（郊外住宅地の資料）の中には、地域課題解決型のビジネスといった非常に限定的な仕事の事しか書かれていなくて、それはそれでももちろん必要だろうが、もう少しまともに仕事のできる場所についての記載が欲しい。大都市や都心に依存できない郊外のあり方として、住宅地の中や周辺の地方都市、場合によっては農村も含めて、郊外住宅地に住む人が都心に働きに行くこと以外の仕事のあり方を模索していく必要があると思っている。資料にどこまで書き込むかはまた別の話で、パブコメ資料にそんなことまで書いてもなかなか伝わらないだろうが、郊外住宅地の生き残り方は一つではないということは伝えておく。

【委員】

他の委員の話にもあったが、食や農という部分がもう少し全般的に関わる場所があってもいいのではないか。郊外住宅地では、家庭菜園や空き地を使ってやるものも良いが、もう少しダイナミックに、農家や集落との連携みたいなものを前に出した新しい暮らし方があってもいいのではないか。また、資料3の2枚目（多自然地域の集落群の資料）に書かれている「食の先進地域」というのは、本来は地方都市とかもっと都会の地域にあって、多自

然地域ではもう少し環境に配慮した農業みたいなものがある中でファーマーズマーケットとか食の文化、食だけでなくアートやクラフトや工芸などが前に出てもいいという気がする。できる範囲で検討してほしい。

【委員】

今回はパブコメ案に関する議論ということで、これを一般にパブコメに出すことでどんな反応が得られるか、我々のメッセージがちゃんと伝わりそうか、誤解はないかという視点で検討いただいたと考えている。パブコメ用の資料には盛り込めないが、色々な議論を重ねてきているので、その部分については、例えばパブコメの意見が返ってきた後により深めるとか、あるいは資料などを提示するとか、そういう検討をお願いしたい。

【委員】

兵庫県の魅力を打ち出すには、一次産業がすごく重要だと思う。大阪に人口が流出しているという状況もあるので、大阪との具体的で分かりやすい比較があることで、兵庫県の良さに気づくと思う。大阪に無くて兵庫にあるものとして、一次産業の打ち出しをもう少し前面に出してもいいのではないかな。食とか農業、林業、漁業などを中心にしながら色々な地域と連携していくというのは分かりやすい。特に若い世代や子育て世代がこれからどこに住もうかと考える時、安全安心な食や、自然が近くにあることを好む人がもっと増えると思う。

【委員】

長期ビジョンがカバーする内容とまちづくり基本方針がカバーする内容との両方が県民の方に伝わる必要がある。両者の役割分担と、どう関係しているのかについては、パブコメ資料の位置付けとして説明が必要なのかもしれないと感じた。

本日、様々な意見をいただいたが、これについては事務局で対応案を検討してもらい、私が確認した上で、12月14日開催のまちづくり審議会に諮ることにはしたいと思うが、それでよろしいか。

【各委員】

(異議なし)

【委員】

内容の確認については私に任せていただいたので、事務局と調整する。

また、パブコメ後の当小委員会の開催については、まちづくり審議会の結果やパブコメの状況等を踏まえて、開催の有無や方法を検討することとする。